

『集中ケア看護』 研修会実施報告

日時 : 平成30年11月14日 8時30～12時30分
対象者 : ラダーⅢ (卒後5年目以上)
参加者数 : 40名
目的 : 重症患者の生体反応の理解を深め看護ケアに活かすことができる。

＜講師の紹介＞

集中ケア認定看護師 主任

2009年 大和高田市立看護専門学校卒業後入職

2015年 神奈川県立保健福祉大学 実施教育センター

急性期重症者支援課程入学し集中ケア認定看護師を習得され
現在、HCUで勤務しご活躍されています。



＜内容＞

講義の前半では、重症患者の特徴、敗血症の定義、ガイドラインだけでなく SIRS (全身生体反応)、SOFA (重要臓器の障害度) について様々な分野で講義していただきました。また、高度な侵襲が加わった患者では、私たち看護師が行うケアがセカンドアタックになり臓器障害の引き金になるリスクについて学びました。そのためにも患者の状態をしっかりアセスメントし、適切な手技、ケアを必要な時に行うことが大切になると再確認することができました。



後半の講義では、OR コードを活用した症状に対する、適した看護ケアはどれかを選択クイズ形式で考えました。

研修生にとっては、日々自分自身が臨床の現場で実践しているケアが適切かどうか振り返る機会になりました。なぜその看護ケアが必要なのかケアの一つ一つに根拠をもち意味のある看護ケアを患者に提供する必要性を再度学ぶことができました。今後、それぞれの部署において、看護ケアの向上につなげられる研修となりました。